2020年11月期 通期決算 説明会資料

イーサポートリンク株式会社 2021年1月29日

- ■2020年11月期 通期決算
 - 1. 業績ポイントと主要項目
 - 2. セグメント別の状況
- 中期経営計画に関して
- 2021年 通期業績の見通し

P. 3

P. 4

P. 1 1

P. 2 0

P. 26

2020年11月期 通期決算

1. 業績のポイントと主要項目

売上高 5,653百万円 前年比 91百万円(1.6%)の増収 営業利益 265百万円 同 4百万円(1.4%)の増益 経常利益 235百万円 同 △18百万円(7.1%)の減益 親会社株主に帰属する 当期純利益 27百万円 (31.2%) の増益 116百万円 同

- コロナウイルス感染症の影響により、新規事業展開に影響があった
- 既存事業については、計画通り
 - ① 輸入青果物サプライチェーンの一部契約満了による減収、減益
 - ② 生鮮MDシステムは、大手量販店グループでのシェアアップと新たな顧客獲得に向けて新規機能開発へ投資を実行
 - ③ りんご、国産青果物、有機農産物の販売は順調に推移
- 新規事業については、計画は未達
 - ① 国産プラットフォーム構想実現に向けた実証実験とそのモデルケース としていくつかの案件を獲得
 - ② ドラッグストア向け青果売場構築は計画通りにいかなかったものの、 ニーズは多い

単位:百万円

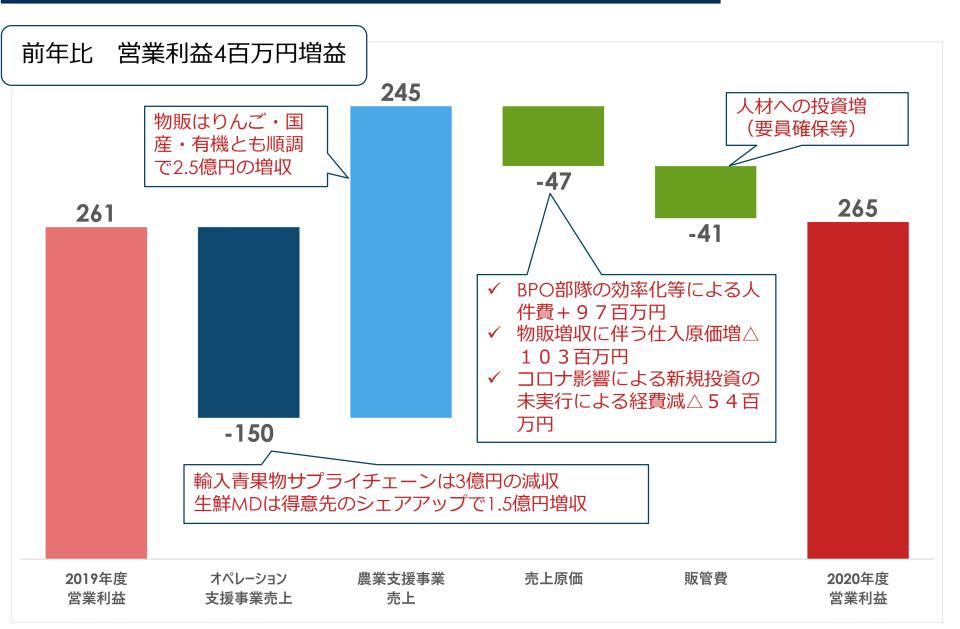
	2019年	2	020年11月期	
	11月期	実績	前期増減	前期比
売上高	5,562	5,653	91	101.6%
売上原価	3,332	3,379	47	101.4%
売上総利益	2,229	2,274	45	102.0%
販売管理費および 一般管理費	1,986	2,009	23	101.2%
営業利益	261	265	4	101.4%
経常利益	253	235	△18	92.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	89	116	27	131.2%
一株当たり当期純利益	20.14	26.43		

[※]百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

単位:百万円

	2019年	4	2020年11月期	
	11月期	実績	前期増減	前期比
売上高	5,562	5,653	91	101.6%
オペレーション支援事業	4,629	4,479	△150	96.8%
農業支援事業	932	1,177	245	126.3%
消去	△3	△3	_	_
営業利益	261	265	4	101.4%
オペレーション支援事業	1,559	1,475	△84	94.6%
農業支援事業	△203	△193	10	105.2%
消去	△1,094	△1,016	_	_

[※]百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます



2020年11月期 連結貸借対照表

9

単位:百万円

	2019年	2	020年11月期	
	11月期	実績	前期増減	前期比
現金	2,604	2,910	306	111.8%
ソフトウェア	682	484	△198	71.0%
投資有価証券	444	418	△26	94.1%
資産合計	5,622	5,535	△87	98.5%
負債合計	1,570	1,388	△182	88.4%
株主資本	4,082	4,177	95	102.3%
純資産合計	4,052	4,147	95	102.3%
負債・純資産合計	5,622	5,535	△87	98.5%

※百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

2020年11月期 連結キャッシュフロー計算書

単位:百万円

	2019年 11月期	2020年 11月期
税引き前利益	198	167
減価償却費及び償却費	382	400
営業活動によるCF	674	567
投資活動によるCF	△464	△93
有利子負債増減	94	△5
財務活動によるCF	△40	△167
現金及び現金同等物の増減額	169	306

※百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

2. セグメント別の状況

オペレーション支援事業

単位:百万円

オペレーション支援	2019年度	2020年度	増減
売上高	4,629	4,479	△150
輸入青果物サプライチェーン	3,207	2,910	△297
生鮮MDシステム	1,301	1,443	142
国産青果物流通プラットフォーム		9	9
営業利益	1,559	1,475	△84

[※]百万円未満切り捨て

[※]主要サービスのみ記載しています

オペレーション支援事業 (輸入青果物サプライチェーン)

	2019年度	2020年度	増減
売上高	4,629	4,479	△150
輸入青果物サプライチェーン	3,207	2,910	△297
生鮮MDシステム	1,301	1,443	142
国産青果物流通プラットフォーム		9	9
営業利益	1,559	1,475	△84

実績のポイント/2020年11月期に取り組んできたこと

顧客との契約一部満了もあり、10%程度の減収となった。 国産青果物運用のオペレーション業務を受託するために、今以上の低コストオペレーションの実現に向けて、効率化と新規顧客獲得を至上命題として取り組んでいる。

2020年11月期の課題	実施結果
オペレーションの効率化と品質向上	システム化、RPA対応によりインシデント・事故件数を50%低減上記の対応等により人件費コストの低減が進捗
既存顧客との戦略的パートナーシップ構築	主要顧客であるファーマインド、スミフルと業務分担を整理しているが、コロナの影響により若干遅延している
新規顧客獲得	• 大手農業団体と、業務受託に向けた準備(有償によるコンサルティングサービス)を実施

オペレーション支援事業 (生鮮MDシステム)

	2019年度	2020年度	増減
売上高	4,629	4,479	△150
輸入青果物サプライチェーン	3,207	2,910	△297
生鮮MDシステム	1,301	1,443	142
国産青果物流通プラットフォーム		9	9
営業利益	1,559	1,475	△84

実績のポイント/2020年11月期に取り組んできたこと

コロナウイルス感染症による営業活動の制約があったものの、大手量販店グループ企業内での拡 販をメインに営業強化を図り、10%以上の増収となった。

2020年11月期の課題	実施結果
大手量販店グループ企業に おけるシェアアップ	西日本エリアの地方スーパーマーケットのニーズを満たした新機能開発への投資を実施上記のほか、グループ企業であるスーパーマーケット等への営業強化
上記グループ以外のチェー ンストアへの拡販	• 上記に対応した新機能が、地方スーパーマーケットの二ー ズとも合致することから、営業活動を本格化

オペレーション支援事業 (国産青果物流通プラットフォーム)

	2019年度	2020年度	増減
売上高	4,629	4,479	△150
輸入青果物サプライチェーン	3,207	2,910	△297
生鮮MDシステム	1,301	1,443	142
国産青果物流通プラットフォーム		9	9
営業利益	1,559	1,475	△84

実績のポイント/2020年11月期に取り組んできたこと

既存流通市場の仲卸企業との取り組みにおいて、受発注業務・在庫管理・流通加工・商物流設計などのニーズと当社のソリューションが合致することと、

売場を起点とした店舗と生産者の直取引のニーズの高まりと、大手チェーンストア、生産者との実証実験から必要なソリューションの整理とシステム投資を実施することができた。

2020年11月期の課題

実施結果

既存市場流通における中間流通企 業の課題解決策の模索 • 大田市場の仲卸企業と取組み(インスペクション)を実施

売場起点での直取引に関する課題 解決策の模索 (牛産者との取り組み)

• 出口戦略とセットで、こと京都と大手小売業のネギの52週MDの実証 実験と本格運用

(小売企業との取り組み)

- 大手量販店グループ企業の横須賀エリアにおける地場調達支援(買取 モデル)の実現。
- その他複数のチェーンストアとも地場調達支援(消化仕入モデル)協議を開始

(投資等)

• 直取引、マッチングに対応したシステム開発(es-Marshē)

単位:百万円

農業支援	2019年度	2020年度	増減
売上高	932	1,177	245
りんご・国産青果物販売	483	629	146
有機農産物販売	402	502	100
青果売場構築支援	51	23	△28
営業利益	△203	△193	10

[※]百万円未満切り捨て

[※]主要サービスのみ記載しています

農業支援事業 (りんご・国産青果物販売)

	2019年度	2020年度	増減
売上高	932	1,177	245
りんご・国産青果物販売	483	629	146
有機農産物販売	402	502	100
青果売場構築支援	51	23	△28
営業利益	△203	△193	10

実績のポイント/2020年11月期に取り組んできたこと

りんご販売については、19年産の集荷量が少ない一方、相場高騰により売上は順調に伸長。20年産は生産量が多く集荷量は増えており国内向けの販売量は順調。一方、計画していた輸出はストップ。

国産青果物販売については、りんご販売を通じて西日本エリアのスーパーマーケットからの依頼により、夏季の国内以北の産地開拓を実現し、テスト販売を行った結果、売上が昨対比で30%の伸長。

2020年11月期の課題	実施結果
りんごの安定集荷体制構築	組合中心に集荷を行い、19年産は集荷が少なかったものの、相場高騰により増収。しかし、事業全体の損益を考えると、組合に依存した集荷体制に限界があることがわかり、現在の組合以外からどう幅広く集荷するかが課題であることが分かった
りんご以外の国産青果物販売 の開始	りんご販売のネットワークを活用し、国産青果物の販売をスタートさせた。生産者の出口戦略として、小売企業のバイヤー 支援としての価値があることが分かった。

農業支援事業(有機農産物販売)

	2019年度	2020年度	増減
売上高	932	1,177	245
りんご・国産青果物販売	483	629	146
有機農産物販売	402	502	100
青果売場構築支援	51	23	△28
営業利益	△203	△193	10

実績のポイント/2020年11月期に取り組んできたこと

ファーマインドと連携し、メキシコ産有機バナナ販売の更なる強化と、取り扱い商材を有機キウイ、有機アボカドへも展開し、商品拡大を図った。

また、大手量販店グループ企業の農業生産法人との協業により、大手量販店グループ企業の有機野菜売場を確保、その他大手量販店向けに「顔が見える野菜」にスポットで提供するなど実証も行った。

2020年11月期の課題	実施結果
ファーマインドとの協業	メキシコ産有機バナナ、有機アボカド、有機キウイの取り扱い 増に貢献
大手量販店グループ企業との 取り組み	大手量販店グループ企業の農業生産法人との取り組みとして、 当社グループの農場の商材を大手量販店グループ企業に提供を 開始した(売場を確保)
大型有機生産者との協業によ る安定調達	大型生産者団体6社との取引拡大に成功し、前年比30%増の 取引拡大を実現
大手量販店のPB商品	「顔が見える野菜」としてスポットで商品を提供

農業支援事業(青果売場構築支援)

	2019年度	2020年度	増減
売上高	932	1,177	245
りんご・国産青果物販売	483	629	146
有機農産物販売	402	502	100
青果売場構築支援	51	23	△28
営業利益	△203	△193	10

実績のポイント/2020年11月期に取り組んできたこと

当初、年度末には100店舗、単月黒字化を目標としていたが、コロナウイルス感染症の影響により、3月~6月が遅延、第4四半期には店舗展開のスピードを上げた。

2020年11月期の課題	実施結果
店舗展開のスピードアップ	ドラッグストアに実績のあるパートナー企業との協業により店 舗展開のスピードアップを実現をすすめています
運営の仕組みの構築	運営の手引書作成、運営ツールの開発を行ったことで、標準 化・効率化が進み、店舗管理のマネジメントが向上した
単月黒字化	3月から6月の期間、出店ができず100店舗は未達、単月黒字化には至らず

中期経営計画に関して

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、2020年4月に発令された緊急事態宣言を受け、新規事業開発や新規顧客獲得にかかる営業活動と投資活動に制約が発生し、その結果、新規事業の展開スピードの遅延などから、当初想定していた中期経営計画の数値目標達成に向けた取り組みに大きな影響を受けることとなった。

2020年9月ごろには、収束に向かうものと想定しておりましたが、実際には2021年1月に首都圏を中心に緊急事態宣言が再び発出され、先行きが不透明な状況が続いており、当社の計画にも引き続き影響を受けると仮定している。

セグメントへの影響は下記の通り。

セグメント	主要サービス	事業活動の主な影響
オペレーション 支援事業	輸入青果物 サプライチェーン	戦略的パートナーシップ構築に関する交渉等に影響
	生鮮MDシステム	新規顧客開拓には影響があったものの、2020年11月期 損益には大きな影響なし
	国産青果物流通 プラットフォーム	生産者とのコミュニケーション機会の喪失、協業ス ピードの停滞により事業展開、投資活動が遅延
農業支援事業	りんご・ 国産青果物販売	計画していたりんごの輸出事業に関してはストップ。
	青果売場構築支援	新規店舗展開の遅延 消費行動の変化により緊急事態宣言時には日販が拡大
	有機農産物販売	有機ということで、オリンピック延期の影響はあった

当社の目指す方向性に変更はない

当社のあるべき姿

変化する市場の役割に対して、システムとBPOで青果流通にかかわるすべてのプレイヤーをサポートすることで、圧倒的優位性をもつ農産物のオペレーション会社になる。

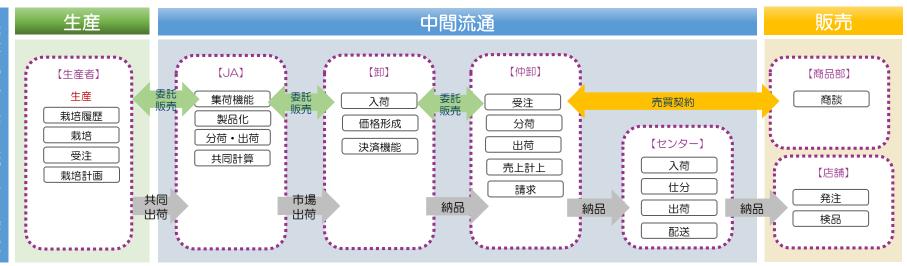
2019年11月期決算説明会資料より

変化する市場とは、

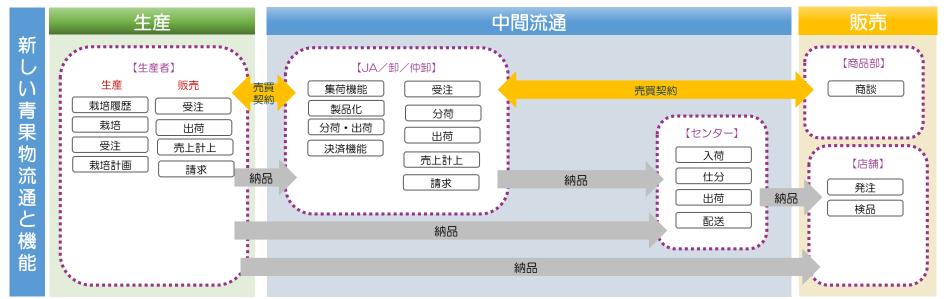
- ①既存青果流通市場の変化(市場法改正、働き方改革、人手不足、高齢化)
- ②生産者と小売業がダイレクトにつながる取引(単品の52週MD、地場野菜など)

新型コロナウイルス感染症による、消費者意識・社会の意識変化が当社を後押し

- ①ECや宅配事業者の伸長による、当社顧客である小売業の更なる競争激化
- ②安全・安心、節約・簡便・健康志向・環境問題に対応した商品調達・供給力強化
- ③ECや宅配利用増加に伴う物流業者の負担増大を踏まえた物流機能の効率化
 - ⇒ これらが市場の変化スピードを上げさせる



- ✓ 小売は鮮度の良い野菜を生活者に提供する(52週のMD、近隣店舗の地場野菜調達)
- 小売ニーズ ✓ トレーサビリティの実現
 - ✓ 生産者の声、生活者の声(双方のコミュニケーション)



- 市場のニーズは確認できていることと、当社の強みを生かし 方向性も間違っていない
- ただ、感染症の状況は事業活動、特に新規事業の推進に影響を与えることから、合理的な数値目標を算出するためには、感染症の収束状況の見極めが重要と認識
- したがって、中計の目標数値は取り下げる
- 収束状況などを見極めた上で、再度、目標数値を設定するので、その時にはあらためて発表させていただく

(参考) 中期経営計画(数値目標)

(百万円)

セグメント	科目	2019年11月期	2020年11月期	2022年11月期
(2) X Z F	1十日 	実績	予想	計画
オペレーション支援事業	売上	4,633	4,665	5,653
	営業利益	1,559	1,439	2,068
農業支援事業	売上	932	1,189	2,103
	営業利益	-203	-120	80
合計	売上合計	5,562	5,849	7,750
	営業利益合計	261	214	1,062

※セグメント数値は、間接費等の相殺などの処理前の金額となります

2019年度決算説明会資料より

2021年 通期業績の見通し

売上高
5,907百万円
前年比
254百万円 (4.5%) の増収
営業利益
73百万円
同 △192百万円 (72.1%) の減益
経常利益
71百万円
同 △164百万円 (69.9%) の減益
親会社株主に帰属する
当期純利益
48百万円
同 △68百万円 (58.3%) の減益

- 輸入青果物サプライチェーンは、顧客の一部離脱は予定通り
- 生鮮MDシステムは、機能開発を継続して実施し、大手量販店グループの地域スーパーマーケットへの導入、それ以外の地方スーパーマーケットへの展開を見込む
- 国産青果物流通プラットフォーム構想の実現に向けて、生産者の出口戦略と合わせた直取引による52週MD、地場調達支援(買取モデル、消化仕入モデル)の展開、ドラッグストアの青果売場構築支援や生鮮MDシステムとの連携による展開などを見込む
- ドラッグストア向け青果売場構築支援事業は、パートナー企業を支援し店舗展開スピードを向上させ200店舗を目指す。
- りんご販売は、組合に依存しない集荷により安定供給体制を確保、国産青果物販売は、本格化 展開と青果物流通プラットフォームの展開と連携を図る
- 有機農産物販売は、大手小売企業との取り組みが本格することを見込んでいる

以上から、生鮮MD、物販は順調に推移するものの、輸入青果物サプライチェーンの減収と新規事業への先行投資等の負担が大きく、全社では増収減益となる見込みである

単位:百万円

	2020年	4	2021年11月期	
	11月期	見通	前期増減	前期比
売上高	5,653	5,907	254	104.5%
オペレーション支援事業	4,479	4,225	△254	94.3%
農業支援事業	1,177	1,692	515	143.8%
内部取引	△3	8	_	_
営業利益	265	73	△192	37.9%
オペレーション支援事業	1,475	1,104	△371	74.8%
農業支援事業	△193	△100	93	148.2%
全社消去	△1,017	△931	_	_

[※]百万円未満切り捨て 縦計、横計の合計値が合わない場合がございます

オペレーション支援事業

			単位:百万円
	2020年度	2021年度	増減
売上高	4,475	4,225	△254
輸入青果物サプライチェーン	2,910	2,256	△653
生鮮MDシステム	1,443	1,600	157
青果売場構築支援 ※1)	23	53	30
国産青果物流通プラットフォーム	9	165	156
営業利益	1,475	1,104	△371

※百万円未満切り捨て

※主要サービスのみ記載しています

※1) 2020年度は農業支援事業

今期取り組むこと

- BPO部隊の効率化を引きつづき実施。(システム化、RPA対応、体制見直しなど)
- Ver.2をベースにした中小輸入商社向け「手板システム」の開発
- 生鮮MDシステムの機能拡充と導入促進(大手量販店グループの地方スーパーマーケット、その他小売企業)
- 出口戦略とオペレーションサービスをセットにした直取引のソリューション、地場 調達支援(買取/消化仕入モデル)など、個別案件を積み上げ、国産青果物流通プ ラットフォーム構想を具現化していく
- 青果売場構築は、店舗展開スピードを上げるために、導入後のフォローアップ回数 を増やし、運営の仕組みをブラッシュアップし、パートナー企業を支援していく

単位:百万円

	2020年度	2021年度	増減
売上高	1,177	1,692	515
りんご・国産青果物販売	629	1,035	406
有機農産物販売	502	631	129
営業利益	△193	△100	93

※百万円未満切り捨て

※主要サービスのみ記載しています

今期取り組むこと

- りんご・国産青果販売は、組合以外に農協やファーマインドとの取り組みなど産地 とのコミュニケーション強化と安定的な集荷体制確保(18万カートンの集荷)
- 外食や加工メーカーなど、小売以外の販売チャネル開拓
- 有機は生協関連で有機バナナが好調、有機野菜についても生協中心に販売を拡大

本資料における注意点

本資料に記載されている内容は、資料作成時点の入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。 予想に内在する様々な不確定要因や外部環境等の変化等により、実際の業績と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

<本資料ならびにIR関係についてのお問い合わせ先>

イーサポートリンク株式会社 社長室 I R担当

TEL: 03-5979-0784 / Email: IR@e-supportlink.co.jp

